特集：国立保健医療科学院の誕生 —今後の抱負と研究内容—

公衆衛生看護部

平　野　かよ子

Department of Pubulic Health Nursing

Kayoko HIRANO

今後の抱負

公衆衛生看護部は，1948（昭和23）年5月に保健婦の再教育のために旧国立公衆衛生院衛生看護学部として設置された．その後幾多の変遷を経て1989（平成元）年に国立公衆衛生院全体の組織が見直される中で，当部は情報政策学系に分類され，公衆衛生行政学部と共に政策学に関係するものとして位置づけられ，公衆衛生看護学部と改称された．平成14年度の国立保健医療科学院への組織改編に伴い，公衆衛生看護部となった．

現在の公衆衛生看護部の設置目的は，公衆衛生看護に関する調査研究ならびに公衆衛生技術者である看護職（主に地方公共団体の保健師と助産師）の研修を行い，資質の向上を図ることである．

今後，当部は，わが国における公衆衛生看護の卒後教育・研修および研究機関としては唯一のものであることの認識を高め，国および地方公共団体の活動を支援する立場から，公衆衛生看護の行政及び実務を担うリーダーを養成すると共に，海外の公衆衛生行政および実務を担うリーダーのニーズにも応えることが重要であると考える．さらに，世界情勢及びわが国の公衆衛生の歴史，地方公共団体の情勢を鑑み，公衆衛生看護に関する研究を推進する体制を強化するとともに，21世紀の新たな公衆衛生活動を展開する保健師等の専門的技術及び活動方法論を明確化することが責務である．

卒後教育・研修体制については，地方公共団体のニーズに対応した教育プログラムの開発も今後の課題となる．例えば，できるだけ職場を離れることなく研修が受けられるように，分割した長期課程の研修プログラムの開発やインターネット等のITを活用した遠隔教育プログラムの開発等である．また，地方公共団体において公衆衛生の研究・研修拠点の整備が推進されることを支援するとともに，本院の教育課程終業者が研究・研修の企画・実施の核となるように，これらの者に対して継続的に支援する体制の整備も課題となろう．さらに，看護系大学および大学院が急増している今日において，大学等の修了者が，さらに公衆衛生看護における高度専門的な技術を獲得するための修士レベルの卒後教育を行うことも当部の役割も重要なものとなると認識している．

公衆衛生看護に関する研究としては，これまで実施してきた「公衆衛生看護活動と評価に関する研究」，「地域における保健師の活動方法に関する研究」，「領域別保健活動の実態に関する研究」，「公衆衛生看護の管理に関する研究」，「人材・能力育成に関する研究」をさらに推進していくことが重要と考える．特に「公衆衛生看護活動と評価に関する研究」と「地域における保健師の活動方法に関する研究」は当部としてのここ数年来のテーマとして教育研修のプログラムとして実施してきたところであり，実践事例を通して活動の評価方法及び活動方法を理論化し，公衆衛生看護学の学問としての体系化を図るとともに，実践に役立つ評価指標の開発や評価研修プログラムの開発等が今後の課題である．

研究紹介

I　公衆衛生看護活動と評価に関する研究

公衆衛生看護活動を，介護保険・母子保健事業，保健所調整機能，会議，予後不良の小児をもつ家族への援助，虐待への支援，総合相談窓口業務，訪問看護ステーションにおける活動等の実際を通して理論化し，それらの活動評価の観点の明確化や指標の開発，評価システムのあり方等について検討している．

1）計画・評価に関する研究

★市町村母子保健事業の数量的分析：福島富士子．市町村母子保健計画を数量的に分析する．保健婦雑誌．1998；54（12）：1002-1007.

★保健所の調整機能の評価の試み：鳩野洋子，植田悠紀子，丸山美知子，石井享子，山田和子，他．公衆衛生研究．2000；49（2）：159-163

★保健所および市町村における保健事業の評価方法の開発－会議における保健所の調整機能の評価について－植田悠紀子，丸山美智子，石井享子，山田和子，鳩野洋子，福島富士子．（主任研究者：小倉敬一）平成9年度保健所の機能強化に関する研究報告書，1998；41－48

国立保健医療科学院　公衆衛生看護部

★NPO活動の客観的評価をどう行うか　アセスメント指標の提案：鳩野洋子，坪川トモ子：生活教育，8，2001．12-18
★保健活動の発展過程の測定　ヘルスプロモーションの観点に基づいて：鳩野洋子，通山和美，壇原三七子，下元裕子，露木美和子，中川淳子，岩永俊博，平野かよ子，尾崎米厚編：事例から学ぶ保健活動の評価，医学書院，2001．57-63．
★市町村における母子保健活動の評価項目の作成：枡田和子，守田孝恵，平野かよ子，尾崎米厚編：事例から学ぶ保健活動の評価，医学書院，2001．64-68．
★グループ育成を目的とした保健事業評価：守田孝恵，平野かよ子，尾崎米厚編：事例から学ぶ保健活動の評価，医学書院，2001．69-79
★地域保健事業における広報媒体の活用の実践と評価：竹内祐子，高橋みね，河西あかね，中島弘美，加藤和美，吉実みちる，宇津木恵，曽根智史，守田孝恵，武村真治．日本公衆衛生雑誌，48（9)764-772
★平野かよ子，島田美喜，鳩野洋子ほか．市町村等における健康づくり事業の評価指標の開発と住民参加型の評価体制のあり方に関する研究．平成12年度健康づくり委託等事業．健康・体力づくり事業財団．
★鳩野洋子，島田美喜，平野かよ子．公衆衛生看護管理者の能力評価1．第60回公衆衛生学会，日本公衆衛生雑誌，Vol．48（10）．2001.
★島田美喜，鳩野洋子，平野かよ子．公衆衛生看護管理者の能力評価2，第60回公衆衛生学会，日本公衆衛生雑誌，Vol．48（10）．2001.

2）サービスの提供に関する研究
★予後不良を告知された小児をもつ家族（父親）への援助：福島富士子．小児看護．1998；21（7）：852-855
★子ども虐待の支援実態と保健婦の役割に関する研究ー全国保健所保健婦を対象とした調査よりー：山田和子，野田順子，上野昌江．安田研究助成論文集，財団法人安田生命社会事業団：2000．35；126-133

3）公衆衛生看護活動の連携に関する研究
★総合相談窓口におけるケア・コーディネーション機能に関する研究：石井享子，鳩野洋子，他．（主任研究者：田中久恵）保健医療福祉地域総合調査研究事業，地域保健における保健婦等の活動に関する研究報告書，1998
★保健所における母子保健活動のあり方に関する研究：福島富士子，他．平成10年度厚生科学研究費補助金健康科学研究報告書,1999
★大阪府の訪問看護ステーションにおける小児患者の現状と課題－地域のシステム化をめざして－：山田和子，他．第9回（平成10年度）研究助成・事業助成報告書，財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団．1999：253-271
★居宅サービス計画における訪問看護サービスの活用に関する研究：九島久美子，長谷部史乃，鳩野洋子，渡部純子：平成12年度フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団研究助成・事業助成助成報告書第11回，2001．221-246

II　地域における保健師の活動方法に関する研究

保健師の活動方法の理論構築のために，地域の実践事例の分析をとおして，保健師の活動の特性や保健師の役割機能について明確にした．また，効果的な活動を展開するために必要な保健師の配置数を導き出した．

★地域保健分野における保健婦の新たな活動方法に関する研究：山田和子，平野かよ子，守田孝恵（主任研究者：山田和子）平成11年度厚生科学研究，2000
★21世紀の地域保健福祉対策に従事する保健婦の活動と配置のあり方に関する研究：北川定謙，平野かよ子，守田孝恵，尾島俊之（主任研究者：北川定謙）平成11年度厚生科学研究，2000
★ヘルスプロモーションの進め方－都会と農村での違い：岩永俊博，鳩野洋子，カマルＡＭモスタファ，石井敏弘．公衆衛生，2001．65　(5)，324-331
★保健婦・士が関わるニーズとケアマネジメント過程の特徴．岡本玲子，鳩野洋子，島田美喜ほか．地域看護学会誌．Vol 4,No1，Mar．2002

III　領域別保健活動の実態に関する研究

公衆衛生・地域保健の領域の中でも，今回は母子保健，高齢者保健，精神保健の領域に関する活動の実態を明らかにしてきた．具体的には，子どもの性的虐待，更年期女性の健康，虚弱老人の閉じこもり，地域精神保健活動の構造について調査・研究を行った．

1）母子保健活動の実態に関する研究
★子どもの性的虐待の実態とその対策：福島富士子．公衆衛生．2000；64(5)：317-323
★日本更年期女性の健康観と医療施設受診状況－都市部と農山村部の女性の意識・ライフスタイルの調査から：鳩野洋子．日本更年期医学会雑誌．1999；7(1)：43-45
★海外の女性の健康施策等の実態に関する調査研究：平野かよ子，曽根智史，島田美喜．平成13年度子ども家庭総合研究事業．2002.

2）高齢者と保健活動の実態に関する研究
★地域ひとり暮らし高齢者の閉じこもりの実態と生活状況：鳩野洋子，田中久恵．保健婦雑誌，1999．55(8)，664-669
★地域高齢者の閉じこもりの状況とその背景要因の分析：鳩野洋子，田中久恵，古川馨子，増田勝恵．地域看護学会誌、2001．3(1)，26-31

3）精神保健福祉活動の実態に関する研究
★保健所の再編に伴う地域精神保健活動の方向性：守田孝恵．季刊地域精神保健福祉情報ＲＥＶＩＥＷ．1999；5（27）：6-9
★地域の精神保健福祉活動の構造化に関する研究：守田孝恵，山崎秀夫．日本病院・地域精神医学．2001;44(2)：237-243

IV　公衆衛生看護の管理に関する研究

公衆衛生看護の立場で，地域に必要な看護・介護の量を示すなど，これからの公衆衛生看護のあり方について検討しました．

★公衆衛生活動の専門家としての保健婦の未来．平野かよ子．保健婦雑誌．1999；55（11）：901-906

★これからの公衆衛生看護のあり方．平野かよ子．公衆衛生研究．2000；49（2）：116-124

★21世紀に向けての地域保健．平野かよ子．公衆衛生．200；64（5）：306-304

V　人材・能力育成に関する研究

公衆衛生看護・地域保健に従事する専門職に必要な能力を示し，その能力を育成する方法について検討しました．また，我が国の人材育成にとどまらず，開発途上国における人材開発についても幅広く研究対象とした．

★開発途上国のPHCにおける地域看護の強化と人材開発のあり方に関する研究：鳩野洋子．（主任研究者：上畑鉄之丞）1999；平成10年度国際協力研究委託費報告書：15-20

★保健婦の調査・研究に関する指導方法の開発・指針作成：丸山美知子，山田和子，植田悠紀子，石井享子，福島富士子，鳩野洋子．平成10年度地域保健における保健婦の機能・役割と資質向上に関する研究報告書（主任研究者：丸山美知子）；1999：1-71

★保健婦のための参加型研修の試み：鳩野洋子，山田和子．公衆衛生．2001．65　(10)，769-771

★訪問看護ステーションにおける現任研修のあり方に関する研究：九島久美子，長谷部史乃，鳩野洋子，渡部純子．平成11年度木村看護教育振興財団看護研究集録82001．29-39

★21世紀に活躍する公衆衛生従事者の資質の向上方策に関する国際比較研究．平野かよ子，曽根智史，島田美喜ほか．平成12年度国際共同研究，ファイザーヘルスリサーチ振興財団．2001.